

メディア学部 メディア情報学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	288
II	ディプロマ・ポリシー	288
III	授業科目について	289
IV	授業科目の単位と認定	289
V	卒業に必要な単位について	290
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	290
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	291
	1. 学科共通科目群	291
	2. 専門科目群	297
	3. Global College 科目群	303
	4. 特設科目群	305
	5. 自由科目群	306
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	307
IX	履修申請について	310
X	正規の履修からはずれる場合	310
XI	試験について	311
XII	授業科目の単位認定と進級および留年	312
XIII	成績発表	313

履修の手引と手続き

I カリキュラム・ポリシー

メディア学部では、教育研究上の目的に基づき、下記の方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- ・「映像芸術コース」（東京紀尾井町キャンパス）は、都心の立地を生かして産学連携のもと、映像・メディアからエンタテインメントまで、様々な表現とメディアを実践的に学び、「文化的なものづくり」を担うクリエイティブ人材を育成する。
- ・「クロスメディアコース」（千葉東金キャンパス）は、地域と連携し、「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」をクロスメディア的に活用し、ビジネスコミュニケーションを遂行できる人材を育成する。
- ・「概論」では俯瞰的・学際的な視野、「講義」では体系的な知識、「実習」では専門分野のスキルとデジタル技術、「実技」では身体性を活かした表現、「制作演習」では「文化的なものづくり」の経験、「産学連携・地域連携プロジェクト」では具体的なテーマや課題に対する創造的な問題解決を実践的に学ぶ。教育の目的に応じて多様な授業形態を設ける。
- ・2つのコースの共通科目として、「学科共通科目群」を設ける。
- ・「専門科目群」は、クロスメディア・映像表現・身体表現・表象ビジネス、サウンドの各分野に必要な専門的な知識と技術を修得するとともに、総合的な判断力や自ら研究することのできる能力を修得する。

産学連携・地域連携・国際連携のもと、「演習・プロジェクト」では、PBL (Project-based Learning, Problem-based Learning) 学習を通して、具体的なテーマや課題に対する創造的な問題解決を実践できる能力を身につけ、メディア業界で活躍できる人材育成を目指す。

II ディプロマ・ポリシー

メディア学部は、下記の能力を有し、かつ所定の単位を修得した者に「学士（メディア情報）」の学位を授与する。

1. 知識・理解

- ・芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報に関する体系的な知識と理解、先端的な技術・表現・文化を身につけている。
- ・今後の時代と社会において、文化とメディアが果たす役割と創造する価値を理解し、新しい感動と価値を創るクリエイティブ産業の発展の方向性を自分なりにイメージできる。

2. 汎用的能力

- ・最先端な映像・サウンド・デザイン・照明・舞台・情報などのメディア関連の技術と表現を身につけている。

- ・多様なメディアを使って、夢、感動、想い、価値、アイデアにカタチを与えて、「創る」「表現する」「伝える」などのクリエイティブ活動を実践できる。
 - ・デジタル技術とアートの表現力を活かし、仕事に新しい感動と価値を与えることができる。
 - ・分業と協業のもと、様々な連携プロジェクトを遂行するコラボレーション力を身につけている。
3. 態度・志向性
- ・チームワークの分業と協業のもと、芸能・演劇・映像・サウンド・デザイン・情報などの「文化的なものづくり」を成し遂げる。
 - ・主体性的にものを考え、論理的なフレームワークに基づいて物事を分析し、明確な意見や結論を導き、課題に対して提案を行い、失敗を恐れずに実行する。
 - ・時代と社会に関心を持ち、表現とメディアを活かして新しいクリエイティブ産業を創造するビジネスマインドをもつ。
4. 統合的な学習経験と能力
- ・映像・メディアからエンタテインメントまで、様々な表現とメディアを総合的に活用し、新しい感動と価値を創るクリエイティブ産業を担う。
 - ・様々な課題に対して、メディアと表現を活かして、コミュニケーションとコラボレーションを通じて、問題解決と価値創造を成し遂げる。
 - ・産学連携、地域連携、国際連携などの連携プロジェクトに参加し、コラボレーション力を身につける。
 - ・グローバルな視野に立ち、時代と社会が必要とする価値のあり方を自分なりにイメージして、創造的に文化的な「ものづくり」や「コトづくり」を成し遂げることができる。
- (授与要件)
- ・本課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け、研究成果を提示すること。

Ⅲ 授業科目について

- メディア学部メディア情報学科における授業科目は、学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ及び専門関連科目群・特設科目群・自由科目群から構成されている。
- なお、自由科目においては、教職に関する科目が準備されている。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・C 4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を

認定しないものとする。

V 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目は卒業に必要な単位には含めない。

系列	学部・学科	メディア学部	メディア情報学科
	単位数		
学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語）			6
学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）			6
学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群）			20
専門科目群Ⅰ（クロスメディア）			26
専門科目群Ⅱ（映像表現）			
専門科目群Ⅲ（身体表現）			
専門科目群Ⅳ（表象・ビジネス）			
専門科目群Ⅴ（サウンド）			
専門科目群Ⅵ（演習・プロジェクト）			24
Global College 科目群			2
指定された各科目群より修得した科目以外に、以上の科目群、「Global College 科目群」「特設科目群」（外国人留学生・帰国生徒に限る）、または他学部（経営情報学部・国際人文学部・福祉総合学部・環境社会学部）の科目より選択必修 ※ただし、他学部の科目で履修可能な単位は、20単位を上限とする。			42
計			126

VI 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには、「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」及び1年次の必修科目を含め36単位以上修得しなければならない。

各学年における累積修得単位数の目安は、1年次38単位、2年次82単位、3年次110単位、4年次126単位以上とする。クロスメディアコース（情報・映像・デザイン・サウンド・広告の5分野）では、それぞれの専門領域に関連する授業科目を、学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群）、専門科目群Ⅰ、Ⅴ、Ⅵの中から自由に組み合わせて4年間で学んでいく。映像芸術コースの8つの分野（演出・制作、映像技術、映像美術、アニメーション・CG、芸能、ステージ、サウンド・音楽、コンテンツビジネス）から、主専攻と必要に応じて副専攻を選び、それぞれの専門領域の授業科目を、学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群）、専門科目群Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの中から選択し4年間で学んでいく。クロスメディアコースと映像芸術コースにおいては、受講するキャンパス

が異なるので注意が必要である。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学年	単位数の目安
1年次 修得単位数 38単位	学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語） Fundamentals of English I・Oral Fluency I …… 2科目4単位（必修） 日本語ⅠA・ⅠB（外国人留学生・帰国生必修）… 2科目4単位（必修） 学科共通科目群Ⅱ（総合科目群） 情報システム論…………… 1科目2単位（必修） 学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群） 基礎ゼミⅠ …… 1科目2単位（必修） メディア概論A …… 1科目2単位（必修） デジタルメディアアプリケーション …… 1科目2単位（必修） ビジネスアプリケーションⅠ …… 1科目2単位（必修） ビジネスアプリケーションⅡ …… 1科目2単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に16単位
2年次 修得単位数 44単位	学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語） 日本語ⅡA・日本語ⅡB（外国人留学生・帰国生必修）… 2科目4単位（必修） 学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群） 基礎ゼミⅡ…………… 1科目4単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に36単位
3年次 修得単位数 28単位	専門科目群Ⅵ（演習・インターンシップ） プロジェクト研究Ⅰ…………… 1科目6単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に22単位
4年次 修得単位数 16単位	専門科目群Ⅵ（演習・インターンシップ） プロジェクト研究Ⅱ…………… 1科目8単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に8単位
卒業 修得単位数 126単位	

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

1. 学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語）

学科共通科目群は、Ⅰ（外国語・日本語）、Ⅱ（総合科目群）の2つの科目群からなる。それらの各科目群のうちから「Ⅲ. 卒業に必要な単位について」に示した所定の単位以上を修得しなければならない。

(1) 学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語）

学科共通科目群Ⅰは、外国語によるコミュニケーション能力と日本語文章力の向上をはかる科目群である。

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)	Fundamentals of English I	②				6 単位	「学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)」 の中より必修科目を 含み、6 単位以上選 択必修。 外国人留学生・帰国 生は「日本語ⅠA・ ⅠB・ⅡA・ⅡB」 を第一外国語として 必修。
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II	2					
	Oral Fluency II	2					
	Basic Writing Skills	2					
	Intermediate Practical Discussion Skill	2					
	Intermediate Reading Skills		2				
	Intermediate Writing Skills		2				
	Intermediate Grammar		2				
	Oral Fluency III		2				
	Advanced Practical Discussion Skills				2		
	Advanced Reading Skills				2		
	Business English Writing				2		
	Spoken Business English				2		
	Oral Fluency IV				2		
	English Pronunciation	2					
	日本語ⅠA	②					
	日本語ⅠB	②					
	日本語ⅡA		②				
	日本語ⅡB		②				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語Ⅱ		2				
	中国語Ⅲ			2			
	中国語Ⅳ				2		
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
韓国語Ⅱ		2					
韓国語Ⅲ			2				
韓国語Ⅳ				2			

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)	ハンガリー語ⅠA	2				6 単位	「学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)」 の中より必修科目を 含み、6単位以上選 択必修。 外国人留学生・帰国 生は「日本語ⅠA・ ⅠB・ⅡA・ⅡB」 を第一外国語として 必修。
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語Ⅱ	2					
	ハンガリー語Ⅲ		2				
	ハンガリー語Ⅳ			2			
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					
	ポーランド語Ⅱ	2					
	ポーランド語Ⅲ		2				
	チェコ語ⅠA	2					
	チェコ語ⅠB	2					
	チェコ語Ⅱ	2					
	チェコ語Ⅲ		2				
	ポルトガル語ⅠA	2					
	ポルトガル語ⅠB	2					
	ポルトガル語Ⅱ	2					
	ポルトガル語Ⅲ		2				
	French ConversationⅠ	2					
	French ConversationⅡ	2					
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ	2					
	フランス語Ⅲ		2				
	フランス語Ⅳ			2			
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ	2					
	スペイン語Ⅲ		2				
ドイツ語ⅠA	2						
ドイツ語ⅠB	2						
ドイツ語Ⅱ	2						
ドイツ語Ⅲ		2					
ドイツ語Ⅳ			2				

※単位数に○印を付してある科目は必修科目

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)	スウェーデン語ⅠA	2				6単位	「学科共通科目群Ⅰ (外国語・日本語)」 の中より必修科目を 含み、6単位以上選 択必修。 外国人留学生・帰国 生は「日本語ⅠA・ ⅠB・ⅡA・ⅡB」 を第一外国語として 必修。
	スウェーデン語ⅠB	2					

〔備考〕

- (1) 学科共通科目群Ⅰでは、第一外国語として英語（外国人留学生・帰国生徒は日本語）を学ぶ。
うち、Fundamentals of English I, Oral Fluency I（日本語は日本語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB）
は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency IIを履修するためには、それぞれのⅠを修得してい
なければならぬ。
- (3) 日本語ⅠA・ⅠBのいずれか2単位を修得していなければ、日本語ⅡA・ⅡBを履修することは
できない。

(2) 学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）

学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）は、情報、社会、経済、文化に関する問題解決に資する総合的知識について学ぶ科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ (総合科目群)	コミュニケーション概論	2				6 単位	「学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）」の中より、必修科目を含み、6単位以上選択必修。
	マスコミュニケーション論	2					
	情報と倫理	2					
	ビジネスプランニング	2					
	世界の中の日本	2					
	地域と大学	2					
	自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2					
	マーケティング論	2					
	ジャーナリズム論	2					
	情報システム論	②					
	ブランドマネジメント論		2				
	グローバル社会と女性	2					
	女性とキャリアデザイン		2				
	世界の児童文学	2					

(3) 学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群）

学科共通科目群Ⅲ（基礎科目群）は、学科の専門領域教育への円滑な導入を図るための情報メディアリテラシー能力の養成と、メディア関連領域の基本的な概念、及び基礎技術を学習する科目を配置している。

基礎ゼミⅠ・Ⅱは、学生生活の導入科目としての役割を持つ。1年次において円滑に学生生活に入るための基礎知識や、将来の職業を視野に入れたキャリアパス設計のために幅広い知識を学んでいく。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅲ (基礎科目群)	基礎ゼミⅠ	④				20単位	「学科共通科目群Ⅲ」の中より、必修科目を含み20単位以上選択必修
	基礎ゼミⅡ		④				
	メディア概論 A	④					
	メディア概論 B	2					
	メディア概論 C	2					
	メディア概論 D	2					
	メディア概論 E	2					
	メディア基礎実習 a	2					
	メディア基礎実習 b	2					
	メディア基礎実習 c	2					
	メディア基礎実習 d	2					
	デッサンⅠ	2					
	デッサンⅡ		2				
	デジタルメディアアプリケーション	②					
	ビジネスアプリケーションⅠ	②					
	ビジネスアプリケーションⅡ	2					
Web デザイン	2						

2. 専門科目群

専門科目群は、ⅠからⅥの6群より構成されている。「クロスメディア」「映像表現」「身体表現」「表象・ビジネス」「サウンド」「演習・プロジェクト」これらの科目群は、それぞれの専門領域に関する専門知識と実践能力の養成を目的とし、加えてそれらを取り巻く社会と文化、及びメディア情報環境への理解を深めることになる。

Ⅰ群はクロスメディアコース、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群は、映像芸術コース、Ⅴ、Ⅵ群は、クロスメディアコースと映像芸術コースの共通科目群である。

(1) 専門科目群Ⅰ（クロスメディア）

専門科目群Ⅰは、クロスメディアに関わる科目群である。1年次の「メディア概論」「メディア基礎実習」を通して、多様なメディアに関する基本概念や基礎技術を学んだ後、主として2年次より「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」「広告」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するための科目を配置している。

「情報」分野では、「データベース」「プログラミング」「データ構造とアルゴリズム論」「マルチメディアコンテンツ制作」を配置している。

「映像」分野では、「スタジオ番組Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

「デザイン」分野では、「表現基礎論」「グラフィックデザイン」「イラストレーション」「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」「生活文化デザイン」「パブリッシングデザインⅠ・Ⅱ」を配置している。

「サウンド」分野では、「デジタル音楽表現」「デジタルサウンド」を配置している。

「広告」分野では、「CM制作」「広告戦略論」を配置している。「クロスメディア」を学習する学生は、学科共通科目群Ⅲの「デッサンⅠ・Ⅱ」「Webデザイン」などを併せて履修し、メディアの基礎能力を高めることを推奨する。

上記のように複数のメディア分野の科目が用意されており、学生は自分の将来の進路や志望する職業にあわせて横断的に科目履修を行い、複合的なメディア能力の獲得をめざすことを期待する。

(2) 専門科目群Ⅱ（映像表現）

専門科目群Ⅱは、映画やテレビ、Web映像などの映像コンテンツと映像文化に関わる科目群である。1年次のメディア概論、基礎実習を通して、映像に関する基本概念や基礎技術を学んだ後、2年次より「演出・制作」「映像技術」「映像美術」「アニメーション・CG」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するために、「シナリオライティングⅠ・Ⅱ」「映像演出」「番組企画・構成」「映像撮影照明」「デジタル映像編集」「映像録音」「音響効果」「映像美術デザインⅠ・Ⅱ」「アニメーションⅠ・Ⅱ」「CG映像Ⅰ・Ⅱ」を配置している。映画研究、特殊メイクの分野にも科目を配置している。

(3) 専門科目群Ⅲ（身体表現）

専門科目群Ⅲは、身体表現と舞台空間に関わる科目群である。1年次秋学期より「音声表現AⅠ・Ⅱ（ヴォーカル）」「音声表現BⅠ・Ⅱ（声優）」「音声表現CⅠ・Ⅱ（アナウンス）」「サウンド表現Ⅰ・Ⅱ（演奏）」「身体表現AⅠ・Ⅱ（ダンス）」「身体表現BⅠ・Ⅱ（アクティン

グ)」の実習を通し、身体表現の基礎能力を養い「演劇制作Ⅰ・Ⅱ」では、舞台空間と演技について、総合的、実践的に学習する。

「舞台空間Ⅰ・Ⅱ」では、舞台音響、舞台照明、舞台美術をはじめとする、舞台表現のスタッフワークについて幅広い知識と専門的技術を学ぶ。舞台芸術に関わる科目として「舞台空間概論」「戯曲研究」「古典芸能研究」「芸能演劇研究Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

(4) 専門科目群Ⅳ（ビジネス）

専門科目群Ⅳは、ビジネスに関わる科目群である。「ビジネスセミナー a・b」では、ビジネスを体系的に学び、「ビジネスモデル研究 a・b」では、企業研究によって経営戦略・ブランディング戦略・広報広告戦略を学び、「コンテンツビジネス a・b」では、コンテンツビジネスの仕組みを実践的に学ぶ。

(5) 専門科目群Ⅴ（サウンド）

専門科目群Ⅴは、音声とサウンドに関わる科目群である。メディア概論やメディア基礎実習でサウンド領域の基礎概念と技術を学んでいることを前提に、「サウンド表現論」や「音楽研究Ⅰ・Ⅱ」では、音楽理論や専門知識の理解を深め、「サウンドデザインⅠ・Ⅱ」「デジタルレコーディングⅠ・Ⅱ」では、音の収集、サウンドコンテンツ制作、サウンド配信、音データベースについて習得していく。

(6) 専門科目群Ⅵ（演習・プロジェクト）

専門科目群Ⅵは、演習や作品制作・研究に関わる科目群である。

「映像制作 a・b・c・d」では、東金キャンパスのTVスタジオ、紀尾井町キャンパスの多目的スタジオや、産学連携の日活撮影所の施設を利用して、作品制作を主に行ない、映像制作現場で必要とされている専門的能力を習得する。

「制作演習 a・b・c・d」では、1年次より学習してきた幅広い専門知識を活かし、より高度な専門分野の研究、コンテンツ制作を実践的、総合的に学ぶ。

「キャリアデザイン A・B・C」では、就職活動へのガイダンスからはじまり、キャリアプランの作成、学生個々のキャリアパスに基づく現場実習を体験し、就職へ向けた総合力を養成する。

「インターンシップ」は、実践教育の一環として、メディア情報関連企業、地方公共団体、各種文化施設、NPOなどの非営利団体における企業研修、地域研究、イベント参加などの学習をはじめ、国内・海外でのメディア情報インターンシップ研修を行なう。大学で学習した専門知識を活かしながら、実務経験を蓄積し、ビジネス現場で必要とされている能力を自分自身の目で理解し、感じ取ることをねらいとしている。

「メディアプロジェクト」は、大学内での講義と実習授業だけでなく、コンテンツ制作やイベント制作の現場でプロフェッショナルとの協働を通して、あるいは、地域社会と連携したフィールドワークに参加することで、学生自らが問題解決能力を高め、価値の創造をめざすことを目的としている。

「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は、3、4年次の必修科目であり、各専門領域のプロジェクト研究

の中から、自分の将来の職業を視野に入れ、所属するプロジェクトをひとつ選択し、各自の研究テーマをより深く追求し、Ⅱ（4年次）では、4年間の学びの集大成として、卒業制作、卒業論文に取り組む。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (クロスメディア)	データベース		4			26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より26単位以上選択必修。
	プログラミング		4				
	データ構造とアルゴリズム論		2				
	マルチメディアコンテンツ制作		4				
	スタジオ番組Ⅰ		6				
	スタジオ番組Ⅱ		4				
	デジタル音楽表現		4				
	デジタルサウンド		4				
	イラストレーション		4				
	表現基礎論	2					
	グラフィックデザイン		4				
	デジタルデザインⅠ		4				
	デジタルデザインⅡ		4				
	パブリッシングデザインⅠ		4				
	パブリッシングデザインⅡ		4				
	メディアデザインⅠ	4					
	メディアデザインⅡ		4				
	生活文化デザイン		4				
	CM制作		6				
	広告戦略論		2				
コンテンポラリーアート論	2						
専門科目群Ⅱ (映像表現)	映像演出		4				
	映像撮影照明		4				
	デジタル映像編集		4				
	シナリオライティングⅠ	2					
	シナリオライティングⅡ		2				
	番組企画・構成		2				
	映画研究Ⅰ		2				
	映画研究Ⅱ		2				
	音響効果		2				
	映像録音		2				
	映像美術デザインⅠ		4				
	映像美術デザインⅡ		4				
	特殊メイク		2				
	色彩学	2					
CG映像Ⅰ		4					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (映像表現)	CG映像Ⅱ		4			26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より26単位以上選択必修。
	アニメーションⅠ		4				
	アニメーションⅡ		4				
	日米映画比較研究			2			
	映画芸術研究		4				
	映画作品研究Ⅰ			4			
	映画作品研究Ⅱ			4			
	映画史Ⅰ	2					
	映画史Ⅱ		2				
	表象文化研究Ⅰ		2				
	表象文化研究Ⅱ		2				
専門科目群Ⅲ (身体表現)	舞台空間概論	2					
	エンタテインメント概論	2					
	舞台空間Ⅰ		4				
	舞台空間Ⅱ		4				
	舞台運営			4			
	舞台照明		4				
	舞台音響		2				
	音声表現 AⅠ	1					
	音声表現 AⅡ		2				
	音声表現 BⅠ	1					
	音声表現 BⅡ		2				
	音声表現 CⅠ	1					
	音声表現 CⅡ		2				
	サウンド表現Ⅰ	1					
	サウンド表現Ⅱ		2				
	身体表現 AⅠ	1					
	身体表現 AⅡ		2				
	身体表現 BⅠ	1					
	身体表現 BⅡ		2				
	演劇制作Ⅰ		4				
演劇制作Ⅱ			4				
古典芸能研究			2				
戯曲研究			2				
芸能演劇研究Ⅰ	2						
芸能演劇研究Ⅱ		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅳ (ビジネス)	ビジネスセミナー a	2				26単位	専門科目群Ⅰ～Ⅴの中より26単位以上選択必修。
	ビジネスセミナー b		2				
	ビジネスモデル研究 a	2					
	ビジネスモデル研究 b		2				
	コンテンツビジネス a	2					
	コンテンツビジネス b		2				
専門科目群Ⅴ (サウンド)	サウンド表現論	4					
	音楽研究Ⅰ	2					
	音楽研究Ⅱ		2				
	サウンドデザインⅠ		4				
	サウンドデザインⅡ		4				
	デジタルレコーディングⅠ		4				
	デジタルレコーディングⅡ		4				
専門科目群Ⅵ (演習・プロジェクト)	プロジェクト研究Ⅰ			⑥		24単位	「専門科目群Ⅵ(演習・インターンシップ)」の中より, 必修科目を含み, 24単位以上選択必修。
	プロジェクト研究Ⅱ				⑧		
	制作演習 a		4				
	制作演習 b		4				
	制作演習 c			4			
	制作演習 d			4			
	映像制作 a		4				
	映像制作 b		4				
	映像制作 c			4			
	映像制作 d			4			
	キャリアデザイン A	2					
	キャリアデザイン B		2				
	キャリアデザイン C				2		
	インターンシップ			2			
	メディア海外研修 a		2				
	メディア海外研修 b		2				
	地域プロジェクト		2				
	メディアプロジェクト a		2				
	メディアプロジェクト b		2				
	メディアプロジェクト c		2				
メディアプロジェクト d		2					
メディアプロジェクト e		2					
メディアプロジェクト f		2					

3. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科 目 群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」より1科目2単位以上選択必修すること。 「Global College 科目群」において修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を限度として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry	2				
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Europe and Japan a	2				
	Europe and Japan b	2				
	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan・U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
Sound Design		2				
Gender and Culture	2					
Women in Asia	2					

系列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	Modernism in Architecture	2				
	The Cityscape Worldwide	2				
	Business and Society	2				
	International Finance			2		
	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2			
	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science		2			
	Japanese to English Translation			2		

4. 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたいうえで、さらにグローバル化社会を担う人材となるために語学実践力を養うことを目的とした科目である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
特設科目群	(Japanese Language and Culture)						<p>「Japanese Language and Culture」は、英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とした科目である。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。</p> <p>「Basic Japanese a・b・c・d」「Intermediate Japanese a・b・c・d」「Advanced Japanese a・b」は、日本語プレメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。</p> <p>その他の科目については、オリエンテーションを受けたいうえで履修すること。</p>
	Basic Japanese a		4				
	Basic Japanese b		4				
	Basic Japanese c		4				
	Basic Japanese d		4				
	Intermediate Japanese a		4				
	Intermediate Japanese b		4				
	Intermediate Japanese c		4				
	Intermediate Japanese d		4				
	Advanced Japanese a		4				
	Advanced Japanese b		4				
	JLPT course a		4				
	JLPT course b		4				
	Japanese Project a		2				
	Japanese Project b		2				
	日本文化 a		2				
日本文化 b		2					
日本社会 a		2					
日本社会 b		2					

5. 自由科目群

自由科目とは卒業に必要な単位数には加算されないが、自由に選択履修することのできる授業科目である。本学科においては、自由科目として、教職課程の科目が準備されている。これらの自由科目については、後掲の「教職科目」の説明を参照のこと。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
自由科目群	日本国憲法	2					
	生涯スポーツ概論	2					
	外国史概説		2				
	日本の歴史 a		2				
	日本の歴史 b		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌			2			
	国際法	4					
	倫理学概論			2			
	宗教学概論			2			
	経済原論 a	2					
	経済原論 b	2					
	国際経済学			2			
	経済学入門		2				
	異文化適応論		2				
	法律学概論		2				
	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	青年心理学		2				
	教育制度		2				
	教育方法論		2				
社会科教育法 I			2				
社会科教育法 II			2				
社会科教育法 III			2				

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
自 由 科 目 群	社会科教育法Ⅳ				2		
	公民科教育法Ⅰ			2			
	公民科教育法Ⅱ			2			
	情報科教育法Ⅰ			2			
	情報科教育法Ⅱ			2			
	情報と職業		2				
	道徳教育の理論と方法	2					
	特別活動論		2				
	生徒指導（進路指導の理論 及び方法を含む）		2				
	教育相談（カウンセリング を含む）			2			
	教育実習Ⅰ（事前及び事後 指導を含む）				3		
	教育実習Ⅱ				2		
	教職実践演習（中・高）				2		

Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス（LAS）センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。

リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系列	授業科目	年次および単位数				備考
			1年	2年	3年	4年	
人格形成領域	①地球と環境	生活と環境	2				LAS科目群から修得した単位の中から30単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます。詳細については、オリエンテーション時に説明します。
		現代の人間思想		2			
	②人間と思想	現代思想	2				
		日本国憲法	2				
	③国家と規範	法律学概論	2				
		政治学入門	2				
	④倫理と社会	倫理学概論	2				
		情報と倫理 ※	2				
	⑤社会とジェンダー	女性学入門	2				
		ジェンダー論	2				
女性学		2					
一般教養領域	①人類のあゆみ	サルからヒトへ		2			
		日本の歴史 a	2				
		日本の歴史 b	2				
		アメリカの歴史	2				
		韓国の歴史	2				
		中国の歴史	2				
		人類と科学技術の発達		2			
	②文化のかたち	文化人類学	2				
		日本文化論	2				
		アメリカ文化概論	2				
		日本美術	2				
		西洋美術	2				
	③社会と経済	社会学入門	2				
		経済事情	2				
		経済学入門		2			
		経済学の基礎	2				
		中国経済入門		2			
	④健康と福祉	心と身体の科学		2			
		健康維持と生活習慣		2			

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎能力領域	①非言語分野	基礎の数学	2				
		線形代数学	2				
		統計学の基礎知識	2				
		総合基礎教養Ⅰ(非言語)	2				
		総合基礎教養Ⅱ(非言語)	2				
	②言語分野	日本語基礎表現法	2				
		総合基礎教養Ⅲ(言語)	2				
		総合基礎教養Ⅳ(言語)	2				
	③ビジネスマナー	ビジネス入門	2				
		ビジネス基礎		2			
		ビジネスマナー		2			
基礎能力領域	③ビジネスマナー	航空・空港キャリア概論 a	2				
		航空・空港キャリア概論 b	2				
	④プレゼンテーション	プレゼンテーションⅠ	2				
		プレゼンテーションⅡ	2				

※ 印は、メディア情報学科の他の科目群に配当

IX 履修申請について

各年次において履修しようとする授業科目は、毎学期の初めの指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなく場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目および担当教員などの変更，追加，取消しなどが無いよう，入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，履修照合期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は，受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。
- (5) Web履修では，授業科目，コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。入力上の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため，登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお，大学内に設置されているPCの台数は限られているので，Web履修のために長時間占有しないこと。
- (6) コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等，履修についての質問は，それぞれのアドバイザーもしくは，学部事務室に相談すること。

X 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

XI 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気または正当な理由により長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定する場所におかななければならない。

- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において、剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

XII 授業科目の単位認定と進級および留年

1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたはプロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。

なお、指定された期日以外には交付しない。

- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。

(合格)	(正規試験不合格)	(追・再試験不合格)
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし	
C：69～60点	評価不能	

- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。

詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。

- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合、代理人は学生証および委任状を持参すること。

